



森ボラ 通信

第226号 2021年3月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター

TEL (fax): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

トピックス

◆ 澄川の森 観察会

新年明けて以降、澄川では整理伐に汗を流す日が続いたが、2月27日、今日は何と作業ゼロ！「観察会」という楽しい森歩きだけのプログラムでした。参加者は協会員21名、お久しぶりの方も何人か見えています。天気は時々晴、曇り、小雪と目まぐるしく変化するものの、春を予感させる穏やかな一日。コースはB-7区から上がって尾根伝いに最奥のE-7区まで歩き、E-5、3区を経由して上流橋から戻るといふもの。更に余力のある人はA-2区を周り中流橋から戻るのも良しとのこと（「えーっ！そんなタフな人いる？」と陰の声）。トップバッターで新雪のラッセルをするのは、「スノーシューでも普通で歩ける」と評判の佐野さんが今年も（去年もトップ；ボラ通214号）選ばれました。

尾根に出て最初に出会ったのがイワガラミの花がら。「森の学校；四季の植物」の澄子先生から、「貴重種なのでくれぐれも間違っって切ることがないように」という注意を受けたばかりです。そばにはノリウツギの花がらが、いくつも雪をふわりと被っています。さらにポコポコとコブを付けた木を発見！今回参加されなかった「森林教室」の酒井先生によれば、ドロノキの枝が伸びきれずに自分で傷を修復した痕だそうです。雪の上には稚樹が顔を出して様々な冬芽が膨らんでいるのが見えます。E-7区に着くころには息も切れてきました。去年整備した階段の下にはハクウンボクがたたずんでおり、花が咲いたらきっと見に来るからねと声をかけました。急斜面を登ってE-3区へ、巻き枯らしにしたニセアカシアの木はまるで白い腹巻を巻いているようでした。この冬初めて訪れた避難小屋の屋根は積雪で重そうでしたが、今日は労働無し。雪下ろしは次の回に先送りとなりました。

めいめいで冬の樹々を楽しんで小屋前広場に戻ると、澄姉さまの入れてくれたコーヒーと、いつもより少しリッチなスイーツが待っていました。7000歩超の大変楽しい活動日でした。（文・合田）



春めいた明るい日差しの中で散策



不思議なドロノキのコブ



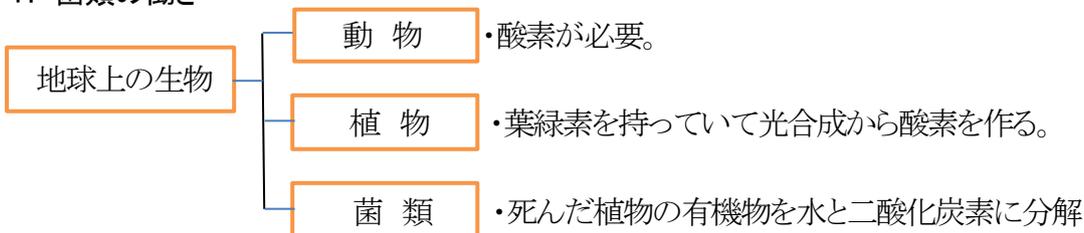
雪の舞うなか尾根で一休み

◆ 2月冬季セミナー報告

シイタケ原木栽培について学ぶ

2月17日に札幌エルプラザにて冬季セミナー『シイタケ原木栽培を成功させるための方法』と題して、上川総合振興局南部森林室富良野事務所の及川勇二さんから講演をしていただきましたので、その概要を記します。

1. 菌類の働き



*例外:ナラタケ(ボリボリ)は生きている樹木にも付く。

2. シイタケ原木栽培

【伐採】・原木はミズナラが最適。その他コナラ、カシワ、イタヤなどが可能。・伐採は秋に落葉してからすぐに行い、40～50日枝をつけたまま放置。・水分があると菌が回らない。

【玉切り】・原木は長さ90～100cm、直径10～15cmが最適。・玉切り後は直射日光を避け、風通しの良いところで、雨を避けるためにシート掛け。【植菌】・植菌はサクラの開花時期、木口(こぐち)にひび割れが2～3本入った頃が最適。・植菌の間隔は縦25cm、横5cm千鳥状に植え、木の傷口や枝の切り口には余分に植えて雑菌の侵入を防ぐ。

・木口に植えるのも可。・多く植えても問題ない。【仮伏せ】・直射日光を避け、雨が当り、排水の良いところ。・縦積みにしてコモやシートで覆う。・5/10～6/10頃まで。・木口に白い模様が始めるのは、菌糸の育成が良好。

【本伏せ】・木漏れ日、雨が当り、風通し、排水が良いところ。・ナメコも同じで良い。・発生まで2～3ヵ月毎に天地返しを行う。・ホダ化が完了するまでの2年間給水は不要。・40℃を超えると死滅。

【発生】・通常、植菌して翌年の秋から発生。・その後4～5年は採取できる。・2年目以降に低温刺激(24時間、10℃下げた水に浸す)を与えると発生が良い。



3. サンドイッチ工法

・ハンノキ、シラカンバなどの直径20～30cm、長さ30cmでヒラタケ、ナメコを栽培。・種菌、米ぬか、おが粉、水を練ったものを原木の木口に塗り、片方の原木を重ねる。・雑菌が入らないように種菌を挟んだ部分をガムテープでぐるぐる巻く。・仮伏せ後は上下を離して種菌の部分が上になるように、地面に少し穴を掘って埋める。こちらの方法もう少し習って、試してみたいですね。



及川さんにはお忙しいところ遠くから吹雪模様の中に講演に来ていただきありがとうございました。当会のキノコ栽培の貴重な勉強の機会になりました。今後は澄川の現場で直接指導を受けたいと思いますのでよろしくお願いします。

この講演は 北海道森と緑の会 グリーンコーディネーター制度を活用し、同会から いつも大変お世話になっている大堀専務が来席されました。また、(株)伊藤組 武内さんが聴講に見えました。(文・樺棒)

◆ 2021 年度の活動体制

2011年4月から事務局長を務めてきました市山さんが退き、松藤さんが就きます。理事長の了解を得ました。市山さんにはお忙しい中、10年もの長い間、協会の対外折衝・会計と事務全般を引き受けてもらい健全な会計に導いていただいたことを感謝します。今後も幹事・理事として活躍をお願いします。

それに伴う事務局長以下のスタッフの体制が幹事会で下記のように決まりましたのでお知らせします。

代表幹事：樫棒 典夫 副代表幹事：清澤 通俊
事務局長：松藤 研 副代表幹事：大窪 健一

その他新しい幹事には松藤さんと西野澄子さんが就き、専門委員会では2022年予定の20周年記念行事担当を新たに設置し、プロジェクトリーダーなどの担当者も変更があります。新しい年度に向けて皆様のご協力をよろしくお願いします。（文・樫棒）

■ 澄川の自然 19

トドマツ（マツ科・モミ属）

道内人工林面積の約半分を占める造林樹種。当協会でも支笏湖の台風被害跡地に約3.4万本の植樹をしてきましたが、その1/3ほどはトドマツでした。澄川の活動地駐車場に入る左側、道路沿いに10本位トドマツとカラマツが混ざって並んでいます。冬場の活動として今年はD-2地区の整理伐を行いました。

澄川の森は、戦後開拓の時にカラマツが植えられました。針葉樹はこれだけとっていたのですが、D-2地区の尾根の一番高い所に1本だけ広葉樹に混ざってトドマツが生えています。10年生位でしょうか。どうしてここにトドマツが一本だけ、という謎が生まれました。

酒井さんが言う仮説があります。活動地前の道路は市道澄川・厚別・滝野連絡線といい、意外と交通量が多く、特に雪捨てのダンプ、自衛隊車輛等々が走ります。トドマツの落ちた種が、雪捨てトラックの荷台から風にあおられ舞い上がり、D-2地区まで届いたか、動物が運んだかです。

トドマツの球果は枝に上向きに付き、熟しても落ちにくく、落ちる時は軸だけ残してバラバラになり風に飛ばされます。そのためにトドマツの松ボックリは地上ではあまり見られません。（文・写真/西野澄子）



出展：北海道森林
管理局Webサイト



■ 今月の幹事会

3月10日

出席者:市山・大窪・荻田・檀棒・加藤・清澤・佐野・釣井・矢澤、矢野、(松藤、西野)

1. 2021年4月、5月スケジュール(4月幹事会4月8日(木)):了承、コロナ対策を継続。
2. 2021年2月会計報告、3月収支計画:いずれも了承。
3. 第6回親子森林教室報告、第7回予定、2021年度応募状況:参加予定者25名。
4. 森林・山林多面関係報告、決算報告:いずれも了承
5. 札幌市みどりの管理課意見交換会:4月中旬予定、2021年度整理伐が一巡する、今後の検討必要。
6. 現場報告
 - ・整理伐状況:D-2区では今年度予定の90%程終了。その後ホダギ、杭材の集材。
 - ・曜日別参加状況;土日の参加者が増えている。土日の活動日増等の検討必要。
7. 現場対応
 - ・3/30野幌道有林活動:食害状況観察、防止網点検補修、駐車場が狭いのでスコープ持参。
8. その他
 - ・2021年度の活動体制と活動計画:事務局長交代に伴う体制変更。活動日数は例年並み。
 - ・3/18 冬季セミナー:北大森林圏ステーション北管理部部長 吉田教授
演題「択伐施業林の50年 ―毎木調査からわかったこと―」
 - ・3/3 横山理事長面談:事務局長交代の件他
 - ・高額資材購入:事務局用携帯電話更新:了承
 - ・野幌国有林の整備状況

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
2月18日(木)	澄川	10	D-2区整理伐、集材
2月22日(月)	澄川	-	コロナ対策により中止
2月24日(水)	澄川	16	D-2区整理伐、集材
2月27日(土)	澄川	21	観察会(管理区～E地区～D地区～管理区)
3月2日(火)	澄川	9	E地区避難小屋・上流橋の雪降ろし
3月4日(木)	澄川	19	D-2区整理伐、親子森林教室準備、樹液採取
3月8日(月)	澄川	-	コロナ対策により中止
3月10日(水)	カズ生活研究センター	12	幹事会
3月11日(木)	澄川	18	D-2区整理伐、集材、樹液採取
3月14日(日)	澄川	19	第7回親子森林教室・修了式